

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
123133092A	スタジオC(地域活性) (小野憲一) STUDIO C	小野 憲一			4	選択	3通期

科目の概要

ライフスタイル学科の「スタジオ」は学生自身が、あるいは地域の人たちや教員が投げかけた問題・課題に取り組み、答えを見つけていく『場』として設定されている。これはライフスタイル学科のディプロマポリシーである「新しいライフスタイルの提案」を実践的に学ぶことにつながる。「スタジオC」ではまちづくりや地域活性に関するテーマから企画・立案し、自治体・企業・自営業等と連携しながら、地域にベネフィットをもたらすプロジェクトを進め、その完遂を目指す。この、あらかじめ解の設定されているわけでない問題・課題をよりよい解決に導くためには、これまでに「ライフスタイル基礎講座」「ライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲ」「スタジオ入門」をはじめとしたライフスタイル学科の授業で身に付けた知識・技術・能力を活用すること、そして学生同士、学生と教員、さらには学外の支援者との協力のもと、最大限の努力を惜しまない態度、最後まで諦めない姿勢が必須となる。2年次後期の「スタジオ入門」からつづく本科目は、本学の教育モデル「学びの泉」の実践を通して、自ら学ぶ能力・ともに学ぶ能力を鍛え上げ、ライフスタイルのデザインに必要な専門的知識・技能だけでなく一般的知識・技能を身に付け、人々の日常生活を衣・食・住および地域活性の面から支援することができること（DP1、2、3、4、5）を目指す。さらには、生涯学習社会の中で潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域・国際社会の課題解決に貢献できる（DP6）ことを目指す、ライフスタイル学科のカリキュラムの核となる科目である。

学修内容	到達目標
① 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ② 課題を解決するための方策を提案する。 ③ チームで計画的に作業を進めることを経験する。 ④ 年齢や立場の異なるさまざまな人とコミュニケーションをとることを経験する。 ⑤ 活動内容を記録し、口頭と文書により報告する方法を学ぶ。	① 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ② 課題を解決するための方策を提案し、実践することができる。 ③ チームで計画的に作業を進め、当初に設定した課題を達成する。 ④ 年齢や立場の異なるさまざまな人とコミュニケーションをとりながら課題を達成する。 ⑤ 活動内容を詳細に記録し、口頭と文書によりプレゼンテーションができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	プロジェクトの完遂のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理、予算管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	プロジェクトの完遂に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	プロジェクトを円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	プロジェクトの完遂のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

テキスト及び参考文献

テキストは用いない。必要に応じて資料を配布する。資料はgoogle classroom等にて提示する。
参考書：授業内で適宜紹介していく。

他科目との関連、資格との関連

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、直接的にはライフスタイル学基礎講座、ライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲ、スタジオ入門の次に位置し、さらには卒業研究へとつながっている。そして、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。

学修上の助言	受講生とのルール
プロジェクトを完遂させるためには、チーム内での連携、教員スタッフや外部協力者からの支援が必要となる。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていくよう心がけてほしい。 また、円滑にプロジェクトを進行させるためには、活動の進捗状況をはじめとした情報の共有が必須となる。そのためにGoogle classroom、Googleドライブのほか、各種ICTツールを積極的に活用していく。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学修は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	30	①	✓			・自身およびチームの活動記録の提出状況及び、内容(10点) ・年度末に提出するプロジェクト全体の活動報告書の内容(20点) ただし、評価はプロジェクトチーム内で一律ではなく、各人の貢献度によって異なる。 ※活動記録および活動報告書はGoogle classroomで提出 獲得…記録の付け方、報告書の書き方を学ぶ(6/30点…20%) 活用…詳細な記録、報告をおこなう(6/30点…20%) 解決…PDCAサイクルを回すために有効な記録／第三者に活動の実態が理解される報告書を作成する(18/30点…60%)
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓			・実施されたプロジェクトの内容(50点) ・定例報告会とスタジオ報告会のプレゼンテーションの内容(10点) ただし、評価はプロジェクトチーム内で一律ではなく、活動、報告に対する各人の貢献度によって異なる。 ※プレゼンテーションのデータはGoogle classroomで提出 獲得…活動の参考となる事例や方法を収集する／効果的なプレゼンテーションの方法をリサーチする(12/60点…20%) 活用…プロジェクトを円滑に推進する／詳細な報告をおこなう(24/60点…40%) 解決…プロジェクト発足時に設定した課題を解決する／第三者に活動の実態が理解されるプレゼンテーションをおこなう(24/30点…40%)
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			【主体性】プロジェクトの完遂に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。 【働きかけ力】プロジェクトの完遂に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。 【実行力】プロジェクトの完遂のために、困難を乗り越えることができる。 【課題発見力】プロジェクトの問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。 【計画力】プロジェクトを円滑に進めるためのスケジュール管理、予算管理ができる。 【創造力】プロジェクトをよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。 【発信力】プロジェクトの進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。 【傾聴力】プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。 【柔軟性】プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。 【状況把握力】プロジェクトの完遂に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。 【規律性】プロジェクトを円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。 【ストレスコントロール力】プロジェクトの完遂のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。 ※上記項目について、担当教員と協働している場面においては、教員の目視、それ以外での活動については自分およびチームの活動を記録したシートの記述内容から評価する。	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
自分の役割を認識し、プロジェクトの完遂、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。 自身の活動報告とプロジェクト全体の活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。 ※上記項目を満たし、とくにプロジェクトに対して高い貢献が認められた場合にS(秀)評価とする。	協力的な態度でプロジェクトや課題に取り組んでいる。 自身の活動報告とプロジェクト全体の活動報告が記録され、提出されている。 以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の基準」に準ずる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	スタジオの授業説明 プロジェクト企画案の プレゼンテーション	レクチャー プレゼンテーション／ 教員からのサジェス ション	スタジオで実施するプ ロジェクトの条件が理 解できる。 プロジェクト企画案の プレゼンテーションが できる。	(予習) スタジオ入門 で作成した企画書を ベースにプレゼンテー ションの準備をする。 (復習) プレゼンテー ションに対してのアド バイスをまとめて、活 動計画を見直す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
2	プロジェクト企画案の 修正 実施計画案をまとめ る。	ミーティング グループ活動	チームの話し合いに積 極的に参加できる。	(予習) プロジェクト の企画案を詳細に検討 し、活動スケジュール を考える。 (復習) プロジェクト の計画書を作成する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
3-7	プロジェクト活動 計画に従って、チーム で共同してプロジェク トを推進する。 ※プロジェクトの進捗 状況を常に確認し、修 正点があれば計画案に 反映させる (PDCAサイ クルを回す)。	ミーティング グループ活動	チームの活動に積極的 に参加できる。	(予習) 前週までの活 動内容を記録してお く。 (復習) プランに従っ て、時間内に完了しな かった課題を完了させ る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
8	定例報告1 プロジェクトのここま での進捗状況をプレゼ ンテーションして、教 員やチーム外の学生か らアドバイスを受け る。	プレゼンテーション／ 教員からのサジェス ション プレゼンテーション聴 講	ここまでの活動内容を 簡潔に説明できる。	(予習) チームで協力 して定例報告会の準備 をおこなう。 (復習) 定例報告会で 受けたアドバイスをま とめて、活動計画を見 直す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
9-14	プロジェクト活動 計画に従って、チーム で共同してプロジェク トを推進する。 ※プロジェクトの進捗 状況を常に確認し、修 正点があれば計画案に 反映させる (PDCAサイ クルを回す)。	ミーティング グループ活動	チームの活動に積極的 に参加できる。	(予習) 前週までの活 動内容を記録してお く。 (復習) プランに従っ て、時間内に完了しな かった課題を完了させ る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
15	定例報告 2 (中間報 告) 前期終了時点でのプロ ジェクトの進捗状況を プレゼンテーションし て、教員やチーム外の 学生からアドバイスを 受ける。	プレゼンテーション／ 教員からのサジェス ション プレゼンテーション聴 講	ここまでの活動内容を 説明できる。	(予習) チームで協力して 中間報告会の準備／中間報 告書の作成をおこなう。 (復習) 中間報告会で受 けたアドバイスをまとめて、 夏季休暇中の活動計画を見 直す。 ※夏季休暇中もプロジェク トを積極的に進める。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
16	スタジオ (後期スケ ジュール) の説明 プロジェクト後半の活 動についての見直し。	レクチャー ミーティング	チームでの話し合いに 積極的に参加できる。	(予習) 夏季休暇中の 活動内容を記録してお く。 (復習) プロジェクト 後半の活動計画を再確 認する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
17- 22	プロジェクト活動 計画に従って、チーム で共同してプロジェク トを推進する。 ※プロジェクトの進捗 状況を常に確認し、修 正点があれば計画案に 反映させる (PDCAサイ クルを回す)。	ミーティング グループ活動	チームの活動に積極的 に参加できる。	(予習) 前週までの活 動内容を記録してお く。 (復習) プランに従っ て、時間内に完了しな かった課題を完了させ る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
23	定例報告3（学びの泉 グランプリ出場チーム 選考を兼ねる） プロジェクトのここま での進捗状況をプレゼ ンテーションして、教 員やチーム外の学生か らアドバイスを受け る。	プレゼンテーション／ 教員からのサジェス ション プレゼンテーション聴 講	プロジェクトの活動内 容を説明できる。	（予習）チームで協力 して報告の準備をおこ なう。 （復習）報告会で受け たアドバイスをまとめ て、活動計画を見直 す。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
24- 29	プロジェクト活動 計画に従って、チーム で共同してプロジェク トを推進する。 ※プロジェクトの進捗 状況を常に確認し、修 正点があれば計画案に 反映させる（PDCAサイ クルを回す）。	ミーティング グループ活動	チームの活動に積極的 に参加できる。	（予習）前週までの活 動内容を記録してお く。 （復習）プランに従っ て、時間内に完了しな かった課題を完了させ る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力
30	定例報告4（最終報 告） プロジェクト最終プレ ゼンテーションをし て、教員やチーム外の 学生から評価を受け る。	プレゼンテーション／ 教員からのサジェス ション プレゼンテーション聴 講	プロジェクトの活動成 果を説明できる。	（予習）チームで協力 して最終報告会の準備 をおこなう。 （復習）活動報告書の 作成※スタジオのまと め。1年間の活動の成 果を報告書にまとめ る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール 力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力